

「現代版里山鍼灸師」の確立に関する予備的検討  
Preliminary Study for Modern Satoyama Acupuncture and Moxibustion Practitioners

○中根 一\*      川嶋 総大\*\*      林 直樹\*\*\*  
○Hajime NAKANE\*, Soudai KAWASHIMA\*\*, and Naoki HAYASHI\*\*\*

## 1 本稿の流れ

人口密度の低下、高齢化、財政の弱体化が進むなか、農村地域の医師不足の問題を解消することは容易ではない。また、高齢になると、健康上の悩みの中心が、生活習慣病や老化による退行変性といった慢性疾患に移行することにも注意が必要である。これは、「ドクターヘリを整備すれば即時解決」といった単純な問題ではない。

この先の「健康づくり」では、「広い範囲を低密度に継続的にカバー」という考え方が非常に重要になる。筆者らは、鍼灸（しんきゅう）師の農村地域への移住、既存医療システムとの連携について検討している。本稿では、鍼灸について概観した上で、「(仮称)現代版里山鍼灸師」に関する提言を行い、その課題について少し述べる。

## 2 鍼灸の現状と可能性

### (1) 米国国立衛生研究所 (NIH) の合意声明書から

鍼灸といえば、「東洋」のイメージが強く、有効性について疑問を感じている方も少なくないであろう。しかし、米国国立衛生研究所 (NIH) の合意声明書 (鍼 (ACUPUNCTURE)、最終版 (1998/2/4)) には、鍼について、次のような記述が見られる。

鍼は治療法の一つとして合衆国で広く普及している。(中略) 成人の術後や薬物療法時の吐き気、嘔吐、および歯科の術後痛に鍼が有効であるという有望な結果が得られている。また、薬物中毒、脳卒中のリハビリ、頭痛、月経痛、テニス肘、線維性筋痛、筋筋膜性疼痛、変形性関節炎、腰痛、手根管症候群、喘息などに対しては、補助的ないしは代替的治療法として、あるいは総合的な管理計画の中に入れて、鍼を利用すれば役立つ可能性がある。<sup>1)</sup>

### (2) 日本の鍼灸師の現状と可能性

鍼灸師には、免許 (医師法・あはき法) が必要であるが、全国には、99校 (2023年春に1校開校) の鍼灸学校があり、毎年の新卒者は約4千人にのぼる。表1は、鍼灸師の平均月給を示したものである。その金額が適正かどうかについては、意見が分かれるところであろうが、医師の場合と比較すると非常に安い。医師の場合、「きまって支給する現金給与額」は1102.3千円 (／人・月)、「年間賞与その他特別給与額」は1175.6千円 (／人・年) にのぼる<sup>3)</sup>。

\* 鍼灸 Meridian 烏丸 Acupuncture and Moxibustion Meridian Karasuma      \*\* 株式会社はり灸おりべ Harikyu Oribe Co., Ltd.      \*\*\* 金沢大学人間社会研究域 Institute of Human and Social Sciences, Kanazawa University  
医師不足, 鍼灸, 配置薬, 集落支援員

また、鍼灸の場合、主な道具は、「はり」「もぐさ」だけである。人材の数、コストの両面で鍼灸には有利な点が多い。

農村地域に限られたことではないが、鍼灸師は、住民の日常的な健康状態をリアルタイムで知ることができる。筆者らは、その情報を既存医療システムと共有することで、質の高い医療が提供できる、と考えている。さらに、鍼灸師は、よい意味で庶民的であり、地元との信頼関係も構築しやすい。

### 3 「(仮称)現代版里山鍼灸師」に関する提言

筆者らは、「(仮称)現代版里山鍼灸師」(以下、単に、里山鍼灸師)という新しい職業を提案したい。その職務は、既存医療システムと連携した鍼灸師、配置薬や日用品の販売員、集落支援員/地域おこし協力隊をミックスしたものである。複数の職務のミックスという点をみれば、「特定地域づくり事業協同組合制度」(総務省)と同じ発想であるため、鍼灸師サイドではなく、そちらからの展開も考えられる。なお、農村地域では、鍼灸院に改装可能な建物(廃校の校舎や空き家など)が多い。それらを積極的に活用すべきと考えている。

試験的な取り組みとして、筆者(中根)は、京都信用金庫の「QUESTION」(多様な分野の人々が集まって答えを探す場所)からの相談を受け、鍼灸師の移住をサポートし、すでに5名が移住している。

### 4 里山鍼灸師の確立に向けての課題

里山鍼灸師については、現在、試行錯誤の状態である。この先の課題として、次のような点を明らかにしたい。①里山鍼灸師と既存医療システムの連携の方法(ICTの活用など)。②十分な報酬や給与を得ることができるか。廃校の校舎の活用なども含め、十分な報酬や所得を得るためのモデル。③どのような人材が里山鍼灸師に適しているか。④どのように人材を育成するのか。⑤教育・研究機関との連携の方法や可能性。⑥スタートアップや事業継続のサポート。⑦個々の住民からの評価。⑧地域づくりへの貢献、⑨全体としての財政負担軽減の可能性(試算)。

#### 【文献】

- 1) 全日本鍼灸学会雑誌編集部「米国国立衛生研究所(NIH)合意形成声明」『全日本鍼灸学会雑誌』48(2)186-193, 1998
- 2) 東洋医療学校協会『第5回あん摩マッサージ指圧師・はり師及びきゅう師免許取得者の進路状況アンケート調査報告書<要約版>(平成28年10月実施)』2017 <https://www.toyoryoho.or.jp/book/>
- 3) 厚生労働省『令和2年賃金構造基本統計調査』2021

表1 鍼灸師等の報酬・給与

Table 1 Rewards and salaries

属性		平均月額 万円/人
性別	男性	22.8
	女性	16.8
年齢別	21~24歳	18.6
	25~29歳	21.9
	30~34歳	21.9
	35~39歳	21.6
	40~49歳	19.9
	50歳以上	14.7
免許種別	あま指師	20.8
	はり師	19.8
	きゅう師	19.8
全体		20.0

出典：東洋医療学校協会<sup>2)</sup>